

月刊

GPP



Vol.56

令和2年6月号

株式会社  
グロースパートナーズ

## ポストコロナにむけて

5月末の日経平均予測レースも、お陰様でピタリ賞寸前の圧勝であった。我ながら2月の時点で3月末と5月末を、こうも的確に予想しているとは、なかなかのものである。

5月末から徐々に街が動き出している。

6月に入ってから電車の混み具合は、朝晩のラッシュ時はコロナ前とほぼ同じに見受けられる。建設現場はGW以降ほぼ全面動き出しているが、事務所系はリモートワークが続いていて、セルドローンの営業活動はほぼ停止状態であった。6月から再始動である。

そして、コロナ禍により延期となっていた、待望の竹中工務店様によるデモが本日（12日）に実施された。お取引されている商社と生コン業者を複数お呼び頂いたうえでのデモであったが、総じて好評を得ることが出来た。残コン問題は法的にもグレーな部分があって、“つかう側”と“つくる側”の責任が明確ではなかったが、これからはSDGsの観点からも、大きく変わっていく領域となることは間違いないであろう。

コロナ禍により若干の遅延は余儀なくされたが、タイミングよくNETIS登録という建設業界に携わるものであれば誰も知る機関に登録され、その後の初めてのデモンストレーションにおいて竹中工務店様という業界最大手より機会を頂戴したのは、少なからずともご縁を感じている。

同時に、今回お越し頂いた商社や生コン業者の方々にとって、セルドロンという名前を耳にされるのはほぼ初めてとのことであった。

まだまだ認知度が低い、営業活動が足りないと感じさせられている。

コロナの襲来により“ニューノーマル (NEW NORMAL)”という“新しい標準”が始まっている。今までのような“どぶ板営業”ではなく、新しいことにチャレンジしていこうと心を新たにしている。

藤井 成厚

発行：株式会社グロースパートナーズ

# セルドロンデモ実施

## ■残コン改質試験を実施しました

セルドロンがNETISに掲載されたことにより、スーパーゼネコンの株式会社竹中工務店様主催でセルドロンの試験施工が実施されました。今回は生コンプラントでの試験練りになり、次回は現場での施工になります。セルドロンが面白い商材とのことで、多くの方に声をかけていただきセメント商社様、生コンプラント様、産業廃棄物処理業者様などが見学されました。

試験目的は、セルドロンを生コン1 $\text{m}^3$ 当たり、15kg・20kg・25kgの3パターンで混合し、改質状態を確認することでした。

少量の生コンにセルドロンを15kg/ $\text{m}^3$ 相当添加し、1分程度角スコップで攪拌するだけで、採石状になります。

生コンプラント様や産廃業者様はとても驚いており、なぜこんなすぐに生コンが空練りのような状態に改質されるのか聞かれましたが、生コンの余分な水分をセルドロンが吸着しているだけです。

「ティッシュはなんで水をすぐに吸うの?」って聞かれているようなものです。

ティッシュ(セルローズ)は、物理的に水を吸着するのです。

セルドロンの効果が良かったため、次回の現場試験もうまくいきそうです。

ご興味がある会社様はぜひお問合せください。デモも行います。

①0kg/ $\text{m}^3$



②15kg/ $\text{m}^3$



③20kg/ $\text{m}^3$



④25kg/ $\text{m}^3$



試験結果



デモの様子